

1. 過労死に代表される長時間労働の歴史（提言の背景）資料

日本医学会連合労働環境検討委員会 報告書（提言）2018年12月27日よりP9抜粋

図表1 医師の過重労働に関連した主な出来事(年表)

○1990年代～

- ・過重労働による脳・心臓疾患（過労死）の注目と労災認定基準の改定（1987、1995、2001）
- ・関西医科大学研修医事件（1998 研修医死亡、2005 最高裁：研修医の労働者性が確認）（研修医は労基法第9条の所定の労働者にあたる）
- 小児科医過労死事件（1999 自殺、2007 行政訴訟、2010 民事高裁和解）（医療費抑制、経営効率、診療報酬の問題（小児科は病院経営上不利）、連続勤務問題）

○2000年代～

- ・患者取り違え手術事件（横浜市立大学）、薬剤取り違え患者死亡（都立広尾病院）1999 医療事故に関する社会の関心高まる → 行き過ぎた患者尊重（患者サービス）、医師の業務負荷増
- ・福島県立大野病院産科医逮捕事件、妊婦死亡 2004、医師逮捕 2006、医師無罪 2008
- ・書籍「医療崩壊立ち去り型サブタージュとは何か」小松秀樹著 出版 2006
- ・書籍「岩波ブックレット No718：壊れゆく医師たち」出版 2008
- ・医師の過重労働に社会が注目
- －大阪府立病院事件（33歳麻酔科医突然死、安全配慮義務違反、2008 大阪高裁）
- －鳥取大学付属病院事件（アルバイト先に向かう途中で外科医が事故死、2009 地裁）
- －奈良県立病院事件（産婦人科医、割増し賃金未払い、2009 地裁、2013 確定）（産科医の宿日直は労基法第41条3に該当せず休日・夜間の宿日直勤務は労働時間に該当する）

○2010年代～

- 職能団体による勤務環境改善への関心の高まりと具体的なアクション
- ・日本医師会「勤務医委員会(2002～)」「勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会(2008～)」等で医師の健康確保策に関する検討が始まる
- ・全国医師ユニオン（2009 結成）
- ・学術団体(日本学術会議等)から相次いで提言
- －労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会 提言「労働雇用と安全に関わるシステムの再構築を――働く人の健康で安寧な生活を確保するために」（2011年4月）
- －パブリックヘルス科学分科会 提言「病院勤務医師の長時間過重労働の改善に向けて」、2011年9月
- ・行政の動き：医療法改正（2014）、医療従事者の勤務環境改善が事業者の努力義務、都道府県に勤務環境改善支援センターを設置

○2014 過労死等防止対策推進法（平成26年11月1日施行）以降の主な動き

- 2015.10 電通過過労自殺記者会見（政府の過労死白書公表同日）
- 2016.6 聖路加国際病院労基署立ち入り調査、未払い残業代支払い、土曜外来中止
- 2016.7 千葉県立6病院「無許可で宿日直常態化」報道
- 2016.10 医師・看護師等の働き方ビジョン検討会（17.4 報告書）
- 2017.3 政府働き方改革実行計画発表
（罰則付き時間外労働の上限規制の導入など長時間労働の是正、労基法等改正
（勤務間インターバル制度の普及促進、産業医・産業保健機能の強化（労働安全衛生法等）
- 2017.6 新潟市民病院女性研修医自殺 報道
- 2017.8 東京医療センター産婦人科研修医自殺労災認定 報道
- 2017.8 医師の働き方改革に関する検討会第1回委員会
- 2018.1 日本医学会連合 労働環境検討委員会第1回
- 2018.2 医師の働き方改革に関する検討会中間論点整理、医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組の発出（2018.3）
- 2018.8 東京医大入試不正・女性差別問題 報道